



たしずみず 市議会だより

ジョン万のふるさと土佐清水



第103号

2017年11月1日



7月会議・9月会議

- 7月会議・9月会議の概要…………… 2
- 議案の議決結果…………… 3
- 一般質問(要旨)…………… 4
- 委員会の活動報告・審査内容(抜粋)…………… 14
- 議長の活動報告…………… 18

あったかふれあいセンター
「きずなの家」
の利用者の方々



9月会議では、平成28年度一般会計歳入歳出決算の認定を含む8議案を認定！

平成29年度一般会計補正予算(第4号)を含む議案12件を可決！

7月会議の概要

7月会議は7月28日に再開し、市長から専決処分した事件の報告1件があったほか、議案4件が提案され、予算決算常任委員会、総務文教常任委員会の審査を経て、採決の結果、議案は原案のとおり可決し散会しました。

9月会議の概要

9月会議は、9月4日に再開し、9月26日までの23日間の審議期間で行われ、市長から議案第42号「平成29年度土佐清水市一般会計補正予算(第4号)」など議案17件が提案されました。

一般質問は、9月11日から13日までの3日間行われ、「土佐清水市中高生みらい議会」について、国民健康保険、緊急時の道路網の整備促進、本市の財政状況について、学校給食、光ファイバ回線の整備についてなど、10人の議員が質問戦を展開しました。

最終日には、今会議で付託された議案について各常任委員会の審査結果報告を行い、採決の結果、すべて原案のとおり可決しました。

市長から専決処分した事件の報告1件があったほか、議会運営委員会から「全国森林環境税」の創設に関する意見書の提出について「の市議会議案が提出され採決の結果、全会一致により原案のとおり可決しました。また、議員から「農業者戸別所得補償制度の復活を求める意見書の提出について」が提出され、1名の議員が質疑を行い、採決の結果、賛成多数により原案のとおり可決しました。さらに「慎重な憲法論議を求める意見書の提出について」が提出され1名の議員が反対討論を行い、採決の結果、賛成多数により原案のとおり可決し散会しました。

意見書

次の意見書を関係省庁等に提出しました

○「全国森林環境税」の創設に関する意見書の提出について

○農業者戸別所得補償制度の復活を求める意見書の提出について

○慎重な憲法論議を求める意見書の提出について



議案等の議決結果

議会	番 号	件 名	議決結果
7 月 会 議	報 告 第 1 4 号	専決処分した事件の報告について(土佐清水市介護保険条例の一部を改正する条例の制定について)	—
	議 案 第 3 8 号	平成29年度土佐清水市一般会計補正予算(第3号)について	可決
	議 案 第 3 9 号	土佐清水市保育所条例の一部を改正する条例の制定について	可決
	議 案 第 4 0 号	土佐清水市立中学校設置条例の一部を改正する条例の制定について	可決
	議 案 第 4 1 号	工事請負契約の締結について	可決
9 月 会 議	報 告 第 1 5 号	専決処分した事件の報告について(訴えの提起について)	—
	議 案 第 4 2 号	平成29年度土佐清水市一般会計補正予算(第4号)について	可決
	議 案 第 4 3 号	平成29年度土佐清水市国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)について	可決
	議 案 第 4 4 号	平成29年度土佐清水市介護保険特別会計補正予算(第2号)について	可決
	議 案 第 4 5 号	平成28年度土佐清水市一般会計歳入歳出決算の認定について	認定
	議 案 第 4 6 号	平成28年度土佐清水市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
	議 案 第 4 7 号	平成28年度土佐清水市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
	議 案 第 4 8 号	平成28年度土佐清水市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
	議 案 第 4 9 号	平成28年度土佐清水市指定介護老人福祉施設事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
	議 案 第 5 0 号	平成28年度土佐清水市介護サービス事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
	議 案 第 5 1 号	平成28年度土佐清水市再生可能エネルギー事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
	議 案 第 5 2 号	平成28年度土佐清水市水道事業会計歳入歳出決算の認定について	認定
	議 案 第 5 3 号	平成28年度土佐清水市水道事業会計未処分利益剰余金の処分について	可決
	議 案 第 5 4 号	土佐清水市立学校給食センター設置に関する条例の制定について	可決
	議 案 第 5 5 号	市道路線の廃止について	可決
	議 案 第 5 6 号	市道路線の認定について	可決
	議 案 第 5 7 号	幡多広域市町村圏事務組合の共同処理する事務の変更及び幡多広域市町村圏事務組合規約の一部変更について	可決
	議 案 第 5 8 号	工事請負契約金額の変更について	可決
	市 議 会 議 案 第 2 号	「全国森林環境税」の創設に関する意見書の提出について	可決
	市 議 会 議 案 第 3 号	農業者戸別所得補償制度の復活を求める意見書の提出について	可決
	市 議 会 議 案 第 4 号	慎重な憲法論議を求める意見書の提出について	可決

賛否の分かれた議案

番 号	件 名	甲 藤 眞	田 中 耕 之 郎	細 川 博 史	前 田 晃	浅 尾 公 厚	森 一 美	小 川 豊 治	西 原 強 志	永 野 裕 夫	岡 崎 宣 男	仲 田 強	武 藤 清	議決結果
市議会議案 第 3 号	農業者戸別所得補償制度の復活を求める 意見書の提出について	×	×	×	○	×	×	○	○	○	○	議長	○	原 案 可 決 (賛6、反5)
市議会議案 第 4 号	慎重な憲法論議を求める意見書の提出に ついて	×	×	×	○	×	×	○	○	○	○	議長	○	原 案 可 決 (賛6、反5)

一般質問

森

一美

議員



1 「土佐清水市 中高生みらい議会」 について

（質問）

中高生みらい議会について

（答弁）

みらい議会は平成27年に泥谷市長より、中高生に市民である自覚と社会参加意識の醸成、まちづくりや市政に対する思いを市政に反映させるため中高生議会を開催してはどうか、との提案により関係機関が協議して始まり、今回で3回目である。満18歳から選挙権を得る時期を間近に控え、中学生や高校生に選挙や政治に興味・関心を持つてもらうためにも是非やってみようという判断から、関係者等と協議を重ね、開催に至った。

質問については、各学校でどのような質問をしたいか募集し、原則、立候補により選出している。市の政

策や計画等に関するものが多いが、それは生活の中で身近に感じていることを自由に質問していると認識している。質問者の中には「中学校や市民体育館の敷地に防災倉庫を設置」や「観光客に楽しんでもらえる方法」等建設的な意見も出ており、「レンタサイクルの導入」という提案は既に観光商工課で実施している。

傍聴者に生徒が少ないのはクラブ活動等の問題もあるが、できる限り傍聴に来られるよう配慮したい。また、インターネットで視聴しているとも聞いている。慣例や形式にとらわれない子供の斬新な意見を期待している。

2 国民健康保険税に ついて

（質問）

国民健康保険の運用状況は

（答弁）

平成25年度から赤字決算が続き、26年度には基金も枯渇している。27年度は7,500万円以上の累積赤字であったが28年度は少し解消できた。しかし、28年度も累積赤字が残っているので、繰上充用による決算処理をした。

平成30年度から管理運営を県に移行するが、その運営方法については、県・市町村国民健康保険事業運営検討協議会で、その方針や事業費納付金の算定方法等を協議している。

全市町村への意見照会やパブリックコメントを実施して、来年1月には大まかな方針が示される。保険料は各市町村の医療費水準や所得水準により算定されるが、大幅なアップにならないよう激変緩和措置が講じられる。

気になる用語

国民健康保険…国民健康保険制度は、国民皆保険の中核を担う仕組みである。これまで市町村が保険者となり国保運営を行ってきたが、今回の改正により市町村とともに都道府県についても保険者となる。財政運営の責任主体が都道府県となることで、保険料負担の公平な支え合いや、サービスの拡充と保険者機能の強化が期待できる。



中高生みらい議会の様子

一般質問

小川 豊治
議員



1 国民健康保険について

(質問)

来年4月より運営主体が県へ移るが改正の概要について

(市民課長)

平成30年4月から市町村とともに都道府県も国保制度を担うこととなる。変更点として国保運営の責任主体が市町村から県に移る。制度改正により保険税負担が急激に増加しないよう激変緩和措置を講じ各市町村に按分した上で納付金として集め運営していく。

(質問)

制度改正により市民の窓口等での手続はどうなるのか。

(市民課長)

被保険者証の交付、高額療養費の手続、保険税の賦課徴収など被保険者の皆さんに直接関わる事務については従来どおり変更はありません。

(質問)

保険税はどうなるのか

(市民課長)

現在のところ国保事業費納付金や標準保険料率が提示されておらず判明していない。来年春ごろには一定分かると思われる。

(質問)

特定健診の受診状況は

(健康推進課長)

平成28年度受診率は33・4%である。健康づくり推進員や生活改善推進員のご協力をいただき、特定健診やがん検診の対象者の自宅を訪問して受診勧奨を実施している。

今後文書やハガキ、電話をはじめ民生委員や区長総会等で引き続き協力をお願いする。

2 市勢の現状と

活性化に向けての

施策について

(質問)

主要産業である水産加工業を中心とした企業化はできないか

(副市長)

市内で商品開発を行い、販路を開

拓している事業所もあり、これらの商品を扱う産地商社的な企業の必要性も認識している。宗田節の産地入札会が中止となっているが、来春再開できないか関係機関で協議している。

神戸市を中心とした(株)ワールド・ワンが展開している「土佐清水ワールド」に本市の食材を提供する

会社も起業されており、今後も地産外商をする民間企業に期待し可能な限り支援したい。

(質問)

今後、地域おこし協力隊を含め移

住施策の取り組みは

(市長)

現在4名が活躍中。任期満了で退任された4名が既に本市へ定住している。県主催で毎年2回東京、大阪で移住フェアを開催しており毎回20組以上の方々が移住相談にいられている。今後もより多くの方に希望を持って本市に移住していただくよう取り組んでいく。



土佐清水ワールド三宮中央通店オープンの様子



市民課国保係

一般質問

西原

強志

議員

1 緊急時にも対応

できる道路網の整備 促進について

(質問)

7月15日に市道旭町天神線の道路改良がなされていない道路付近において発生した建物火災の消火活動について、どのような影響があったのか

(消防署長)

通常なら、直近に位置し放水するため、到着後1分程度で放水開始を行うが、本火災は、現場までの道幅が狭く、水槽付ポンプ車の進入ができないため通常の出動隊形がとれず、火点まで約200メートルのホース延長を行ったため、放水開始までに時間を要した状況になっている。

(質問)

今後の火災予防活動の取り組みについて

(消防長)

市民の日頃からの防災意識の取

り組みと関係機関、団体等との連携

した出火防止対策、初期消火の徹底を推進し、特に高齢者住宅では、消防団等と連携し、防火指導を行い防火意識の高揚を図る。

また、昨年12月に新潟県糸魚川市で大規模火災が発生しており、この事例を教訓に道路狭隘^{きょうあい}地域、木造住宅密集地域など火災の拡大が懸念されるような地域では、消防計画の見直し、被害の軽減に努め、火災予防活動を展開していきたい。

(質問)

供用開始できる市道旭町天神線の道路改良工事について

(答弁)

この路線の、清水ヶ丘から下だる約300メートルの狭隘な区間は、軽自動車が行き通るのがやっとであり、対向車と行き違いが難しいカーブが多く傾斜がきつい路線と認識している。地権者との関係など、土地の問題により市道整備が進んでいない道路は、大変難しい課題である。



地元の区長や関係者、地権者の協力もお願いし、可能なところから確実に整備を進めて参りたい。

2 地震津波の防止対策の 推進状況について

(質問)

老朽住宅等除却事業実施状況について

(危機管理課長)

制度ができた平成25年度から29年度8月末日までに68件実施している。

(質問)

この補助金を受けて実施した事業で除却後土地等が売却された場合は補助金の返還はあるのか、また補助金交付要綱の見直しについて

(危機管理課長)

本補助制度を活用し住宅を除却した場合、跡地利用についての制限は、国・県の上位補助制度にも規制や補助金の返還規定はなく、現行規定で参りたい。



土佐清水市総合防災訓練の様子



消防車両

一般質問

岡崎 宣男

議員



1 「沼津市戸田の塩」は

地場産業として

成功している

本市でも塩の

製造販売を行い

産業振興が

できないか

お聞きします

(質問)

担当者を沼津市の「戸田塩の会」

に行政視察に行かせてはどうか

(農林水産課長)

数年前まで松崎海岸から海水を汲み上げ釜炊きによる塩を製造・販売をされている方がおいた。販路も広がっているように聞いていたが最終的には計画通りの採算が合わず閉鎖された。また、県下では既に複数の事業者もある。(旧佐賀町・田野町等)

本市の塩が他地域と差別化できるか、あるいは塩産業の将来の見通

し等、研究・検討が必要ではないかと認識している。

(質問)

本市の場合、原料の海水は目の前の太平洋にあり、薪・流木などもある。塩の製造には適していると思うが如何か

(農林水産課長)

質問を受け、この戸田の塩の会の取り組みを知った。この地域の場合「塩」そのものの特徴を取り上げただけでなく、地域の漁師の奥さんたちが町おこしのために立ち上がったものであり、町ぐるみの手作り感が感動を与え成功している。

本市の塩が他地域と差別化できるのか。また塩産業におけるこれらの見通し、そして粘り強くこの産業に関われる人たちがいるのかどうか等、研究させていただきたい。

(質問)

塩の製造販売による産業振興に

ついて、Uターンした友人等なども強い思いがある。市長の考えをお聞きする

(市長)

塩を使った特産品の開発ということであるが、特産品を開発するということは、本当に並大抵のことではない。ご提案いただいたUターンの方もそういう想いがあるのか、また市民の皆さんから具体的な計画・行動、そしてくだいようだが、「やる気や想い」こういったものがなければ、私は「事業は成功しない」と思っている。その上で厳しいことをいうが、補助金ありき・行政主導というのではなく、しっかりと事業として成り立つのであれば、本当に支援していかなければと思っている。



松崎海岸の様子



亀串海岸の様子

一般質問

前田

晃
議員

1 健康遊具について

(質問)

市街地の公園に健康遊具を設置できないか

(まちづくり対策課長)

公園施設の更新などの「公園施設長寿命化計画」の策定とともに、少子高齢化を踏まえた公園の施設整備についても検討したいと考えている。地元区長をはじめ団体等の意見も聞きながら、健康遊具の設置についても検討していきたい。

2 本市の財政状況について

(質問)

泥谷市政1期目の大型事業による将来世代に残される負担(借金、市民サービスの低下)についてどう認識しているか

(市長)

この4年間で集中してスピード感を持って実施した事業は、将来にわたって必要な事業であったと

思っている。地方債残高や公債費が増えることは確実だが、その増えた分を市民に負担を求めたり、市民サービスを低下させることは決していないということを明確にしておきたい。

(質問)

経費削減のため、行政施策の計画は外部に委託せず自前で作成できないか

(市長)

計画の内容によって、庁内で策定するもの、委託するものを判断している。計画の内容を精査・確認しながらより効果的な方法で対処していきたい。

(質問)

多額の経費を要する情報システムの保守・改修も、自前で対応できないか

(市長)

自治体としては「頭の痛い」問題だが、専門的な知識・技術等が必要であることから一般職員での対応は困難である。

3 核兵器禁止条約に

関わって

(質問)

核兵器禁止条約についての所見は

(市長)

核兵器禁止条約が採択されたことは、被爆者をはじめとする多くの方々の願いである「核兵器のない世界」実現への具体的な一歩が踏み出されたものと歓迎する。

(質問)

核兵器禁止条約の批准を日本政府に強く働きかけてほしい

(市長)

日本政府には、被爆者の想いをしっかりと踏まえ、本気になって核保有国と非核保有国の橋渡し役としての行動を起こすとともに、実効性のある核兵器禁止条約に力を尽くすよう、平和首長会議や日本非核宣言都市協議会など関係機関と連携して要請していきたい。

気になる用語

健康遊具……大人が遊び感覚で運動を楽しめる器具のこと。公園などに配置されており、中高年の方がストレッチや健康増進、介護予防といった自分に合った運動を行うことができる。



健康遊具

一般質問

浅尾 公厚

議員



1 防災について

(質問)

台風5号、早めの避難勧告について

(危機管理課長)

本市の対応は危機管理課による情報収集体制をとり「避難準備・高齢者等避難開始」を発令し、風雨による影響が少なく明るいうちに、高齢者等要配慮者に対し、早めの避難行動の呼びかけを行った。平成28年台風10号が、北海道・東北で水害をもたらし、高齢者の被災が相次いだことから本市では今回が初めての発令となった。市が開設した下ノ加江・三崎・下川口市民センター及び中央公民館には、暗くなるまでに次々と高齢者等が避難し、最大51名の避難があった。

今後市として、空振りを恐れず、情報を総合的に判断し、速やかに住民にお知らせすることを心がけていく。

(質問)

高齢者・障害者の搬送について

(危機管理課長)

「避難準備・高齢者等避難開始」を市が発令する場合は、明るい時間帯の早めの避難開始を促したい。要配慮者が避難を必要とする場合は、「土佐清水市避難行動要支援者避難支援個別計画」により自主防災組織・民生委員・児童委員・警察署・消防本部・消防団・社会福祉協議会等が対応、リヤカー等の活用も含め、早めの避難行動にご協力をいただきたい。

(質問)

避難場所での対応について

(危機管理課長)

避難所となった市民センターの職員とも避難所運営について意見交換も行い、課題等の提起、改善すべき課題について見直しを行い、充実を図っていきたい。

(質問)

県から出された土砂崩れ危険箇所マップ。避難場所は大丈夫か

(危機管理課長)

本市は風水害時の避難所として、32か所を設定、その中で9か所が危険箇所に含まれるか隣接している。土砂災害の危険が高まった場合、氣象庁の警戒判断システム、高知県の危険度情報により情報が得られるので、速やかに安全確保や避難所変更の対応を行う。

(質問)

これからも、早め早めの勧告・指示を

(市長)

対策本部において、「空振りは良いが、見逃しはするな」の基本方針のもと全職員に早めの対応を指示している。これからも災害対策全般について、その方向で対応していく。

気になる用語

避難準備・高齢者等避難開始

避難の事前準備のために発表するものです。高齢者の方や障がいのある方などが自主避難を開始する目安となります。

避難勧告

人的被害が発生する可能性が明らかに高まった状態であり、避難行動を開始するために発令するものです。

避難指示(緊急)

人的被害が発生する危険性が非常に高まった状況で、まだ避難をしていない人に直ちに避難等を促すものです。

※必ずしも、この順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。

一般質問

細川 博史

議員

1 光ファイバ回線の整備について

(質問)

市内の光ファイバ回線の整備状況について

(総務課長)

市内の光ファイバ回線による超高速ブロードバンドサービスは、市街地全域、三崎の一部、半島の一部に整備されている。それ以外の地域については、従来のADSL回線となっている。

(質問)

整備拡大に向けた取り組みについて

(市長)

光ファイバの整備は、市内の情報格差を解消し、市民生活の利便性の向上と移住促進や新たな雇用の創出など地域の活性化を図る上でも必要不可欠な基盤であり、大きな効果が期待できる。しかし、市単独での整備には多大な財政負担を伴う。県は、今年度より民設に対する補

助制度を新設し、また未整備地域が残る市町村の整備に協力的な見解を示している。

今後は、工事費の見積もり等の条件を踏まえ総合的に勘案しつつ、県とも協力し、市内全域の光ファイバによるインターネット環境の整備を行っていく。

2 メジカ産業再生プロジェクトについて

(質問)

現在の取り組み内容について

(農林水産課長)

現在、冷凍保管施設や残渣加工施設、共同加工施設の建設を予定しており、下ノ加江冷凍センター内冷凍加工設備のライン化整備も行っている。

また、宗田節などのメジカ加工製品の新市場創造計画の策定に向け、宗田節独自の基準づくりや、新商品の開発等、各種調査を含めた作業を進めている。

平成25年度以来開催できていな



い宗田節入札即売会の開催やメジカ関連の新たなイベントなど具体的な検討も進めている。

(質問)

メジカ産業が目指すべき将来像について

(市長)

「さかなのまち」土佐清水市の基幹産業である水産業は、高齢化や後継者・担い手不足が深刻化し、メジカを加工原魚とする宗田節の生産量も減少している。

宗田節のブランド化や流通体制を強化し、新商品の開発や、節納屋を利用した体験型観光などの事業を実施したい。

また、伝統を継承する漁業者の育成にも力を入れ、メジカ中心の地域産業クラスターの形成を目指している。

伝統産業であるメジカ産業に携わるすべての方が、仕事に自信と誇りを持ち、次世代に引き継げるよう取り組んでいきたい。

気になる用語

産 業…… クラスターとは、本来「(ぶどうなどの)房」や「集団」、「群れ」のこと。
クラスター 産業クラスターは、一次産業から三次産業までの様々な取り組みや仕事をつないで集積し、点から面へ多様な仕事を数多く創出すること。



メジカの水揚げの様子

一般質問

甲藤

眞
議員

1 学校給食について

(質問)

毎日800食以上の食材ということを考えれば、地域活性化の一つの要因になり得る可能性を持つ、地産地消であると思います。地元産食材の利用についての見解は

(学校教育課長)

安定確保や、学校給食衛生管理基準に準拠した運用などの課題はあるが、地場産業の振興等につながる大切な事項と認識している。米は、農林水産課と連携し、JA職員や水稻部会長と協議し、市内産の米確保に向け、協力体制の構築を図った。水産や商工部門でも関係機関と現在協議中。実施まで期間は限られており、市長部局との連携をさらに強め、関係団体との協力を得て取り組んでいきたい。

(質問)

可能な限り、地元産食材を利用し、二次産業の下支えの一つにしてほしい。

地産地消の割合を上げる方法論は
(農林水産課長)

農産物に関して調査した中では、教育委員会が、農産物直販所と契約している形が多く、本市も同様な形で食材納入業者を選定するようなら、必要な農産物の種類や量などの情報提供や農薬管理の勉強会など、関係者、関係団体、関係機関等と積極的に関わっていきたい。

水産物に関しては、学校教育課の担当者が、元氣プロジェクトや土佐食と協議中であり、水産担当として更に具体的な作業計画を示していきたい。

2 高齢者福祉計画・

第7期介護保険事業計画について

(質問)

土佐清水市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画策定協議会に臨む市の方針は

(健康推進課長)

第6期計画で目指した目標や具体的な施策を踏まえ、地域包括ケア



システム構築のための「つながり」を深化、推進。高齢者、子供、障害者等の介護・福祉サービスを組み合わせた共生型サービスを提供する総合福祉サービス拠点の整備に取り組む。

(質問)

県下に先駆けて取り組んでこられた市長の見解は

(市長)

一定の成果を上げてきたこれまでの取り組みを継続・充実するとともに、高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画においては、更に様々な支援体制を強化。「とさしみず総合福祉サービス拠点施設」を整備し、「土佐清水市版地域包括ケアシステム」の深化・充実に力強く取り組む。



いきいきサロンの様子(足摺岬)



学校給食センター建設の様子

一般質問

田中耕之郎

議員

1 足摺岬先端部分の

土地について

(質問)

進捗状況について

(観光商工課長)

第五管区海上保安本部が所管する足摺岬無線方位信号所局舎跡地については市から払い下げの要望書を提出し、市議会からもヤブツバキ樹林の復元を求める意見書を提出。今年度は、施設の撤去、敷地の工事を実施する。

今後の活用方法については足摺岬自然を守る会や環境省を中心に足摺岬ヤブツバキ林再生プロジェクトが始動しており、この中で払い下げの当該土地の活用についても議論していきたい。

今後のスケジュールについては工事完了後、財務省に所管替えをし、市と払い下げ協議を行い、来年度には払い下げられる予定となっている。

2 小中学校の通学

について

(質問)

現在の児童生徒の通学状況について

(学校教育課長)

学校統合により運行しているスクールバスは現在、小学校6路線48名、中学校6路線79名の合計127名が利用している。路線バスの定期券購入費を全額負担している事例では小学校9名、中学校7名の合計16名となっている。

(質問)

財政負担について

(学校教育課長)

平成28年度実績では保育所との併用路線を含め小学校6路線、委託料や燃料費等のランニングコストは1,742万円、中学校7路線で5,843万円となっている。

(質問)

高齢化が進み免許返納者が増えてくる本市の状況を踏まえ、路線バ

スの再整備と登下校の利便性向上についての市長の所見は

(市長)

路線バス、デマンド交通、スクールバス等の本市の移動手段確保に要する費用は平成28年度決算で約1億2,000万円と大きな財政負担となっている。24年度は約6,700万円であったが、この4～5年で2倍に費用が膨らんでいる状況である。

現在、企画財政課、学校教育課、福祉事務所において路線バスによる児童生徒の送迎を含め、より良い方法での送迎について協議を行っている。

(質問)

スクールバスを含めた公用車の管理状況について

(総務課長)

消防車両を含む公用車の台数は152台のうち、浸水エリアでの管理は15か所、88台となっている。今後、利用頻度等を勘案し空きスペースなどの分散配置も検討していく。



スクールバス



足摺岬ヤブツバキ林再生プロジェクトの様子

一般質問

武藤

清

議員



1 「若者議会」(仮称)の検討を

検討を

(質問)

先日、「中高生みらい議会」が本会議場で開催され、胸が熱くなる多くの質問に対し、執行部答弁の真剣さに好感が持てた。どう分析、評価するか

(教育長)

議場という正式な場での質問は、大きな自信となり、土佐清水市の一員であることの自覚と社会への参加意識を高めたものと認識している。同時に、来年度以降も継続していきたいと考えている。

(市長)

新鮮な目と鋭い感覚で、自らの経験の中で生まれた質問であり、さらに土佐清水市を良くしたい、その願いのこもった質問であったこと、大変頼もしく感じた。また、選挙年齢が18歳へと引き下げられたこともあり、今回の経験が、政治への関心をさらに持ち、よりよい社会をつくる上で、大変有意義な取り組みだと

感じている。

(質問)

「若者議会」(仮称)の検討を

愛知県新城市では、16歳から29歳までの若者に、実際に市の予算、つまり税金の使い道を決めさせる「若者議会」を開催しているという。ややもすると他人事と思われがちな行政を、自らの責任と実感できる意義ある事業と思う。検討してはどうか

(市長)

先進地の事例、土佐清水市の現状も含め、今後の研究課題として調査・研究したい。

2 平成28年度

「土佐清水市水道事業
会計決算書」及び
「決算審査意見書」から

(質問)

浮かび上がる課題は何か

(水道課長)

有収水量確保のための漏水対策、施設の老朽化対策、未収金対策、純利益の減少対策。

(質問)

決算状況からも、極めて厳しい経営状況と言わざるを得ない。区長会等を通じ、市民へ詳細な現状報告が必要と思うがどうか

(市長)

重要なライフラインであり、水質管理を徹底し、適切に維持管理する必要がある。水道料金は19年間据え置かれている。現在、水道料金審議会で審議を受けているが、市民の皆様には十分周知を行い、大きな負担にならない取り組みをしたい。

3 ジオパーク推進事業

(質問)

認定への道しるべは

(観光商工課長)

不認定の指摘事項は、「土佐清水市ならではのジオストーリーの構築」「目的に沿ったビジョンの作成・共有」の2点。手探りであった前回と比べ、改善するところが見えてきた。それを道しるべに認定に向け取り組みを進める。



ジオサイト「唐人駄場」



中高生みらい議会の様子

委員会の活動報告

総務文教常任委員会

7月12日に、梶原町と本山町で「小中・中高一貫教育」についての先進地視察を行いました。



行政視察の様子(本山町)

関西学院大学と協定を結ぶ本山町の小中一貫教育と、梶原町の小中一貫教育について、どのような計画性を持ち継続的な学力向上に取り組んでいるか、また本市の学力

アップを目指すにはどのような取り組みが必要かなどについて視察を行いました。

本山町では、高校教諭が中学校へ行き授業を行っているため、そのまま嶺北高校へ進学した生徒の個々の習熟度を把握しやすいことや、中高の連携が取りやすい点が挙げられました。

梶原町では、梶原学園を訪問し、授業の視察を行いました。また、教育現場で教員の体験に基づいた話を聞くこともでき、大変有意義な研修となりました。



行政視察の様子(梶原学園)

委員会の審査内容 (抜粋)

7月会議

予算決算常任委員会

1 平成29年度土佐清水市一般会計補正予算(第3号)について

(執行部)

この事業は、木質バイオマス資源の持続的活用による再生可能エネルギー導入計画を策定するためのものであり、具体的には、国有林を除く市内の森林資源、特にウバメガシ等天然林の調査を行い、宗田節生産の燃料及び備長炭等特用林産物の原材料賦存量の把握を行う。また、灯油に代わり木質バイオマスボイラー等を導入した場合の燃料費等にかかるコスト、二酸化炭素排出抑制量及び燃料となる薪等の安定供給可能性の調査も行うものである。

これにより、森林資源の活用及び燃料代等の市内循環等を進めることで産業の育成、振興につなげるとともに、乱伐を誘発しない生産体制等を

構築するための基礎資料とすることで二酸化炭素排出量を抑制し環境保全に資することを目的に実施する。

(委員)

委託料の内容について

(執行部)

市内の木材資源賦存量と所在地の調査については、土佐清水市森林組合を予定している。木質バイオマスエネルギーの利用コスト及び安定供給する可能性の調査は、市外のコンサルタントを予定しており、プロポーサル方式等による業者の選定を検討している。

(委員)

薪ボイラー導入可能性について

(執行部)

今後整備を予定している国立公園ビクターセンター及び爪白キャンプ場での活用を検討していきたい。

(委員)

この事業は公益財団法人からの補助事業で県内では本市のみ採択された事業であり、今後ともこのような補助事業を活用するよう要請する。

総務文教常任委員会

1 工事請負契約の締結について

(委員)

土佐清水市立学校給食施設

の入札について

(執行部)

指名競争入札は6社を指名し、1社が辞退したため、入札参加業者5社で入札した結果、「入見建設」が2億4,278万4,000円で落札、落札率は96.66%。

構造については、鉄骨造平屋建てとなっており、施設面積は878.13平方メートル、資材倉庫は44.38平方メートルの面積となっている。敷地は、清水中学校サッカーグラウンドの一部を利用し建設するものである。施設概要については、会議室横の廊下と厨房の間がガラス張りになっており、給食を作っている工程を保護者や子供たちが見学できるつくりとなっている。また、アレルギー対応の調理室は、アレルギーの子供たちの食材を他の食材等に触れないかたちで調理をするように計画している。

(委員)

アレルギー対応の子供は、何名か

(執行部)

保育・小・中学校に聞き取りをしたところ20名程度の子供が何らかのアレルギーがある。給食説明会の中で、今後アレルギーの調査を全保護者対象に実施した上、必要に応じ医師の診断書を提出していた

だ。子供たちの命に関わる
ことなので細心の注意をは
らっていききたい。

(委員)

アレルギーの子供について
は食べ方にしても個々の対応
が必要な場合があるためしつ
かり調査をした上、適正に実
施するよう要請する。

工期の事業実施について

(執行部)

工期が2月末までであるの
で問題はない。

9月会議

予算決算常任委員会

(予算審査)

1 平成29年度土佐清水市

一般会計補正予算
(第4号)について

◆小学校教育情報

セキュリティ強化

事業について

(委員)

個人情報扱う校務系とイ
ンターネットに接続する学習
系について

(執行部)

校務系とは教職員が使用す
るパソコンで、児童の成績等
個人情報を取り扱うもの。学
習系は、パソコン室などで児
童が調べものに使用するイ
ンターネットに接続されたパ
ソコンである。

強化を図るに当たって

は、本市では個人情報漏え
いはないが、全国的には教育
現場においてコンピュータウ
イルスの感染などにより、個
人情報の漏えいが問題となっ
ている。これを受けて、平成28
年8月文部科学省から「教育
情報セキュリティのための緊
急提言」が出され、校務系と学
習系の分離を行い、校務系に
ついては高度なセキュリティ
環境の回線である地方公共団
体情報システム機構の総合行
政ネットワーク(LGWAN
IIエルジー・ワン)を使用する
よう通知があった。さらに、県
からも、平成30年2月までに
校務系と学習系を分離し、校
務系についてはLGWANを
使用するよう通知があった。
なお、情報漏えい問題に関
しては、現段階では最も信頼
できるシステムと認識してい
る。

◆浦尻運動公園運動広場

夜間照明改修工事 について

(委員)

夜間照明を水銀灯からLED
ライト灯光器にかえること
による費用の削減効果につい
て

(執行部)

設置灯数を70灯から36灯に
減らす、明るさはこれまでの
1.2倍ほどの照度があり、
また、電気料金は年間100

万円程度減額となる。保安業
務委託料については、高圧業
務用電力から低圧の従量電灯
Bにかわるため13万8,000
0円が不要となるなど、年間
120万円から130万円程
度の経費削減を見込んでい
る。

また、従来の水銀灯は10年
ごとに交換が必要であった
が、最近では劣化が進み70灯
のうち1年間で10灯を交換す
る年もあった。これに対し、L
EDは5万時間の寿命があ
り、年間1,000時間の使用
もしていないため、単純計算
では50年間の継続使用が可能
である。

以上の説明から、改修工事
実施により大幅な経費削減に
つながる。



浦尻運動公園の夜間照明

◆幡多地域エリアネット ワーク事業について

(委員)

この事業における本市の取
り組むべき課題について

(執行部)

幡多エリアの市町村の協議
の中で、子供の減少、活動場所
や指導者の不足が共通の課題
として出され、これらを解決
するため、県が推進する「ス
ポーツ推進プロジェクト」の
一環として本事業が始まった
もので、具体的にはスポーツ
活動の地域間格差を解消し、
スポーツ大会への参加者減少
等の解消に向け、幡多地域の
それぞれの市町村で小学生を
対象として取り組む事業であ
る。

本市では、本年度は陸上競
技を予定しており、競技に必
要な基礎的な体の動きから基
礎体力の調査を進めている。
また、市町村が単独では招聘
することが難しい講師等を招
いて本格的な研修を受けるこ
とが最大のメリットである。

予算決算常任委員会

(決算審査)

1 平成28年度土佐清水市

一般会計歳入歳出決算
の認定について

◆報償費について

(委員)

区長に対して支払われた報
償金1,847万8,560円
の内訳について

(執行部)

市内68地区を対象に、地区
当たり8,000円の均等割
と、1世帯当たり130円の
世帯割を算定基礎としてお
り、区長会の要望も加味した
上で、報償金の算出を行っ
ている。

(委員)

本年3月の予算委員会の中
で、広報とさしみずの配布に
ついては、区長がボランティア
で行っているとのことであ
ったが、広報配布作業は地
区としては一番大きな仕事
で、この作業が報償金に含ま
れないことはおかしいのでは
ないか

(執行部)

広報の配布作業自体は、一
世帯当たりの算定基礎は示し
ておらず、配布作業としての
報償金は支払っていない。ま
た、区長業務の中には、様々
な行政課題への対応も含まれ
ており、広報配布手数料とし
てではなく、これら全般的な
ものに対する報償金の中に広
報配布も含まれていると判断
している。

◆土佐清水市ふるさと元氣基金について

(委員)

ふるさと元氣寄附金が前年度より約10倍に増加した要因について

(執行部)

ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」に登録したことで、容易にインターネットからの申し込みができ、クレジット決済を可能としたことや返礼品を充実させたことから、飛躍的に寄附金が増加した。

(委員)

寄附金に対する返礼品相当額ほどの程度か

(執行部)

5割程度の返礼品を送っていたが、平成29年4月に総務省から、寄附額に対する返礼品の調達価格の割合を3割以下とする旨の通知があったため、同年5月から返礼品を3割程度とし、品ぞろえの見直しもあわせて行った。

(委員)

引き続きインターネット等を活用するなど、更なる取り組みを要請する。

◆爪白キャンプ場等

基本計画策定事業

について

(委員)

決算審議における事業説明書の中で、キャンプ場運営に

ついて初年度1,226万3,000円の赤字、5か年平均でも900万円の赤字との試算が示されているが、今後の見通しについて

(執行部)

株式会社スノーピークから提出された計画では、赤字額が示されているが、竜串全体の観光客数が落ち込む中で何とか誘客を図るためには、会員数が多く今後も誘客の伸びが期待できる運営が必要である。また、同社の会員が竜串地域を訪れた際の経済波及効果が期待できるなど、観光施設相互の連携により、収益を見込める要素があると認識している。

(委員)

赤字が出た際の対応について

(執行部)

株式会社スノーピークには指定管理料として支払うものであり、赤字補てんとは考えていないこと、さらに同社は今後、中国・四国・九州地区に店舗展開を図り、これに伴う会員の開拓も行い、アウトドア愛好者を増やす戦略と聞いており、現在の試算を改善する取り組みも期待できる。

爪白キャンプ場



◆災害用自家給油設備

設置工事について

(委員)

不用額2,125万2,600円について

(執行部)

県から「命をつなぐ」対策、応急対策時の燃料確保事業として、南国市と本市が指定を受け、南海トラフ地震等大規模災害時における消防車両等の燃料確保を目的に、消防庁舎敷地内に燃料タンクを設置するものであり、当初予算における積算根拠としては、南国市の事業費を参考に算出し、工事請負費の内訳は、土地

造成費1,000万円、本体工事2,894万2,990円の計3,894万2,990円とのことであり、既に、給油設備については、平成29年4月に完成し5月から運用を開始しているとのことであります。

設計段階においては、当初予定していた既存の擁壁の取り壊しは訓練棟への影響や、キャンピー（上部全体を覆ったひさし）の設置工事は台風等の暴風による破損を考慮し不要としたため、大幅な減額となったが、土地造成等に予期せぬ費用が発生する可能性もあったことから、減額補正について見送ったものであるが、土地造成は設計どおり施工できたため、多額の不用額が発生した。

(委員)

南国市の事業費を参考としたとのことだが、設置する場所により条件等変わってくるものが想定でき、当初予算の段階でもっと精査し予算計上すべきではないか

(執行部)

県内において本市の事業採択は2例目で、南国市の事例を参考に当初予算の計上を行ったものであり、今後、予算計上に当たっては、より精査するとともに、補正計上においても適正な対応をしていきたい。

災害用自家給油設備



2

平成28年度土佐清水市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について

◆保険給付費について

(委員)

平成28年度の保険給付費17億1,486万7,184円について

(執行部)

前年度と比較し約1億7,700万円減額となった理由については、医療費の減少が大きな要因である。具体的には、薬価の減額改定による高額調剤等の値下げや、人工透

析患者数が平成27年度と比較し一月平均で約3名減少しており、一人当たりの月額医療費47万円程度が抑制されたことがあげられる。また、国保事業年報により入院医療の検証をしたところ、入院日数の減少と同時に一件当たりの医療費も減っており、入院患者が重篤化していないことなどがうかがえ、医療費の減額につながったと考えられる。

(委員)

地域健康増進促進事業(かかりつけ薬局推進事業)の成果について

(執行部)

平成28年度の新規モデル事業として実施したものであり、講演会を1回、出前講座を11回開催し、参加者へ後発医薬品(ジェネリック医薬品)を周知することにより一定の効果があつたと認識している。今後も、いきいきサロン等に出向き、継続して、ジェネリック医薬品の普及啓発に取り組んでいく。

(委員)

国保財政の健全化につながる取り組みであるので、今後、ジェネリック医薬品の普及について要請する。

3 平成28年度土佐清水市指定介護老人福祉施設事業特別会計歳入歳出決算の認定について

◆一般会計繰入金について

(委員)

一般会計から同特別会計へ2,983万7,476円の繰り入れをしているが、これまでの決算状況では歳出全体の8割を人件費が占めているため、しおさいの経営が逼迫しているとの報告を受けているが、今後も経営が厳しくなつた場合、一般会計から繰り入れすることになるか

(執行部)

平成28年度から、職員労働組合も含め協議を重ね人件費の削減に向け取り組んできた結果、行政職給料表(二)を導入することで合意ができ、平成29年度から3か年をかけ激変緩和措置を講じ、給与の適正化を実施している。

このことから行政職給料表(二)の完全実施は3年後となり、その間は一般会計からの繰り入れも必要な状況である。今後の介護報酬の動向にもよるが、3年後のシミュレーションでは一般会計からの繰り入れはないものと判断している。

総務文教常任委員会

1 土佐清水市立学校給食センター設置に関する条例の制定について

(委員)

条例制定の概要について

(執行部)

今回の条例制定は、土佐清水市立学校給食センターが平成30年6月実施に向け取り組む中での、関連条例として提案するもの。

主な内容については、給食センターに事務職員と県から配置される栄養教諭それぞれ1名を置き、給食全般の運営に関し適正かつ円滑に進めるため、学校長や小・中学校PTA会長等で構成される「土佐清水市立学校給食運営委員会」を設置することなどの条項となっている。また、給食費や欠食者の取り扱いなどは規則・要綱に盛り込んでいく。

(委員)

給食センターの職員配置及び運営について更に詳しい説明を求める。

(執行部)

給食センターに配置する人員は合計14名程度を見込んでいるとのことであり、学校教育課長がセンター長を兼務し、係長級の市職員及び県栄養教諭を配置し、委託予定先の株式会社メフォスが12名程度の社員で調理部門と給食の配送を行う計画としている。

(委員)

給食センターの運営管理に関する事項については規則等で定めるとのことであるが、給食センターの設置に関する

条例の中に、給食センターの管理についても、うたい込むべきではないか。今後議会が関与しない規則・要綱等についてもその都度、当委員会へ報告するよう要請する。

さらに、全国では、給食の食べ残しが問題となっており、学校によつては大部分の子供が給食を残している例もある。栄養面も十分考えなければならぬが、対策は考えているか

(執行部)

給食センター開始に当たり、残食調査が求められており、日々学校ごとで検査することとなっている。今後は、栄養教諭の指導のもとで全員完食に向け、他の事例も参考にしながら、取り組んでいきたい。

産業厚生常任委員会

1 市道路線の廃止について市道路線の認定について

(執行部)

議案第55号「市道路線の廃止について」、栄町天神2号線、岸壁通り天神線及び旭町天神線の3路線は、清水第三土地区画整理区域内の道路の一部を整備したため廃止するもの。

議案第56号「市道路線の認定について」、大浜白鷺松尾線は、県道足摺岬公園線松尾バ

イパス道路の開通に伴う県道の一部引き渡しを受け、市道として認定するもの、グリーンハイツ24号線は、グリーンハイツ造成区域内の道路の引き渡しを受け、市道として認定するもの、足摺西笠嶺線は、足摺簡易水道施設内の道路を市道として認定するもの、清水ヶ丘大通線他28路線は、清水第三土地区画整理事業により整備した道路の一部を市道として認定するもの。

(委員)

市道認定の効果について

(執行部)

市道認定の効果については、今回の両議案により道路延長が約12キロメートル増加し、平成31年度から普通交付税算定の基礎として基準財政需要額に算入されることが見込まれる外、補助事業等の対象になる。



議長の活動報告

議長は、年間を通して議会を代表し各種行事や式典、会合等に出席するほか、本会議において議事を整理し、議会の事務を統理するといった職務を遂行しています。

7月～9月の議長の主な活動状況については、左記のとおりとなっております。

- 7月 2日 竜串桜浜海水浴場「海開き」
ジオパーク討論会(中央公民館)
観光インターンシップ促進事業に係るインターンシップ生受入歓迎会(足摺テルメ)
- 5日 全国市議会議長会 第208回理事会・第14回国と地方の協議の場等に関する特別委員会(東京都)
- 6日 第67回社会を明るくする運動土佐清水市推進委員会
- 9日 高知県自衛隊家族会創立60周年記念行事(高知市)
- 12日 土佐清水ワールド4号店神戸・三宮中央通り店オープニングセレモニー(神戸市)
- 14日 平成29年度土佐くろしお鉄道中村・宿毛線運営協議会定期総会(四万十市)
- 18日 平成29年度土佐清水地区地域安全協会総会
- 20日 全国森林環境税創設促進議員連盟第24回定期総会(高知市)
- 21日 平成29年度土佐清水市暴力追放市民会議総会
- 24日 幡多6市町村議会議長懇談会(宿毛市)
- 25日 県道中村宿毛線整備促進期成同盟会監査
- 26日 ジョン万次郎NHK大河ドラマ化実現実行委員会
- 27日 高知県日華親善協会懇親交流会(高知市)



土佐清水ワールド幡多パル西新宿店
オープニングセレモニーの様子

- 8月 2日 四国横断自動車道高知県建設促進期成会
平成29年度通常総会(四万十市)
- 3日 第28回四国西南サミット
- 4日 平成29年度県道中村宿毛線整備促進期成同盟会総会(三原村)
- 12日 第56回市民祭「あしずりまつり」
- 21日 要望活動(中国四国防衛局・中国四国地方環境事務所)
- 22日 土佐清水市交通安全市民会議
四万十市議会議会運営委員会行政視察来局
- 24日 第131回高知県市議会議長会臨時総会(須崎市)
- 26日 土佐清水分屯基地開庁22周年記念行事
下川口集落活動センター設立委員会
- 27日 平成29年度姉妹都市交流郵YOU杯歓迎式
- 28日 平成29年度国道321号改良促進期成同盟会総会

- 9月 3日 防災訓練
- 16日 しおさい敬老会
- 18日 市街地敬老会(中央公民館)
- 26日 交通安全協会土佐清水支部表彰式
- 28日 土佐清水ワールド幡多パル西新宿店
オープニングセレモニー(新宿区)

議会報告会の テーマ募集について (お礼)

議会だより第102号では、今年度、第2回目の議会報告会のテーマを募集いたしました。応募いただきました方々には、ご協力いただき誠にありがとうございました。

テーマは、『コミュニティづくりなどの地域振興について』となり、高齢化が進む本市において、高齢者の方々が尊厳を保ちながら暮らし続けることができる地域の実現を目指すためにコミュニティづくりなどの地域振興をどのようにすすめていくか、というテーマに決定いたしました。

今後とも本市議会運営にご協力の程、よろしくお願いいたします。



- 7月 12日 総務文教常任委員会視察(栲原町・本山町)
 21日 議会運営委員会／議会だより編集委員会
 26日 平成29年度「中高生みらい議会」リハーサル
 27日 平成29年度「中高生みらい議会」
 28日 7月会議

- 8月 25日 総務文教常任委員会／産業厚生常任委員会
 28日 議会運営委員会

- 9月 4日 9月会議再開日
 11日 質疑・一般質問
 12日 一般質問
 13日 一般質問
 14日 予算決算常任委員会(予算審査)／議会運営委員会／議会報告会代表者会
 15日 総務文教常任委員会
 19日 産業厚生常任委員会
 20日 予算決算常任委員会(決算審査)
 21日 予算決算常任委員会(決算審査)
 26日 9月会議散会日／議会運営委員会／議会報告会代表者会

編集後記

朝晩めっきり寒くなりました。今年インフルエンザの流行が早いと聞きます。日頃からの予防を心がけてください。

さて、今回は毎年開催しております、中高生みらい議会について少しふれたいと思います。この議会は、子供たちの考える、斬新かつ今を見据えた市政に対するダイレクトな質問会議であり、今回も中高生の皆さん21名が市政について質問を展開しました。いつもより一層緊張した様子の執行部からは、議員の一般質問以上に、分かりやすく丁寧にしつかりとした答弁がありました。それは子供たちの質問のレベルの高さとの確さに触発されたのではないかと感じました。杓にとらわれない、中高生の生き生きとしたみらい議会、これからも市政に刺激を与える質問を期待いたします。

そんな白熱する中高生みらい議会を是非皆さんも傍聴いただけますようご案内申し上げます。そして、今の日本を取り巻く環境、またこの度の衆議院選挙はどう映っているのか子供たちの議論の呼び水になればと期待します。(議会だより最終ページには中高生みらい議会の質問内容を掲載しております。)

委員長 永野 裕夫

市議会を

傍聴してみませんか

開催日程など詳細は、事前に議会事務局(☎⁽⁸²⁾11112)まで

お問い合わせください。

○次の開催予定は12月初旬です。

日程が決まり次第、防災行政無線でお知らせいたします。

会議の詳しい内容は会議録をご覧ください。

本会議の一般質問など会議での発言を記録した「会議録」を作成しています。

製本は12月会議頃となります。どなたでも閲覧できますので、市民図書館・議会事務局へおこしください。

また、市ホームページにも掲載しますのでご覧ください。



土佐清水市議会だより

編集委員会

永野 裕夫

岡崎 宣男

田中耕之郎

浅尾 公厚

中高生みらい議会が開催されました

7月27日、清水中学校・清水高等学校の生徒が議員となり、市政の課題などについて執行部に質す「中高生みらい議会」が市議会議事堂にて開催されました。

傍聴席から保護者や現職議員も見守る中、中学生からは細川優輝君が、高校生からは窪内唯さんがそれぞれ議長となり議事進行を行いました。緊張しながらも質問や要望を投げかけ、泥谷市長をはじめ執行部も真剣に答弁を行うなど、本会議さながらの質問戦が展開されました。

最後は、橘涼葉さんと川村優花さんが中高生を代表してあいさつを行い、閉会となりました。



順位	質問者			質問内容	答弁者
1	清水中学校	3年	橘 涼 葉	1. 災害時の備蓄品について	危機管理課長
2	清水中学校	1年	鈴 川 佳乃子	1. 災害時の非常食について	危機管理課長
3	清水中学校	3年	有 田 彩 乃	1. 土佐清水市での少子化対策について	市 長
4	清水中学校	3年	増 谷 尚 也	1. 中浜・大浜地区の中学生通学について	企画財政課長
5	清水中学校	2年	山 添 明 宏	1. 路線バスの便数について	企画財政課長
6	清水中学校	2年	岡 崎 裕 大	1. 人を傷つける言葉について	教 育 長
7	清水中学校	1年	扇 喜 舞 花	1. 地域でのゴミそうじについて	環 境 課 長
8	清水中学校	2年	岡 田 彩 央	1. 道の駅について	農 林 水 産 課 長
9	清水中学校	3年	細 川 優 輝	1. 子どもにも楽しんでもらえる観光地について	観 光 商 工 課 長
10	清水高等学校	3年	下 田 夏 菜	1. 災害時の妊婦のケアについて	健康推進課長
11	清水高等学校	3年	畑 山 菜の子	1. 災害時のドローン活用について	消 防 長
12	清水高等学校	3年	谷 岡 龍	1. 災害後のケアについて	健康推進課長
13	清水高等学校	2年	山 崎 優	1. 清水高校の建て直しについて	副 市 長
14	清水高等学校	2年	永 野 大 介	1. 漂流してきた瓦礫について	環 境 課 長
15	清水高等学校	2年	佐 竹 亜 優	1. 災害時、清水高校の避難所から中学校への避難経路、時間について	危機管理課長
16	清水高等学校	3年	窪 内 唯	1. 観光～観光する場所について～ (ものはあるけど所は…)	市 長
17	清水高等学校	3年	上 原 りのあ	1. 福祉～少子高齢化について～	福 祉 事 務 所 長
18	清水高等学校	3年	山 口 明沙香	1. 自然災害～交通整備について～	まちづくり対策課長
19	清水高等学校	2年	森 本 永 遠	1. 避難所に物資が届くまでの時間と経路について	危機管理課長
20	清水高等学校	2年	新 谷 仁	1. 避難時のペットへの対応について	危機管理課長
21	清水高等学校	2年	川 村 優 花	1. 災害時、家族との連絡の対応について	危機管理課長